３　舗　　装　　工

3　舗　　装　　工

3－1　アスファルト舗装の構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－１
　3－1－1　舗装の構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－１
　3－1－2　置換厚 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－２
　3－1－3　設計ＣＢＲ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－３
　3－1－4　舗装厚の設計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－５
　3－1－5　舗装構成の標準 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－６
　3－1－6　凍上抑制層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－６
　3－1－7　開放型・閉鎖型 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－８
　3－1－8　路床が岩盤の場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－９

3－2　取付道路の舗装・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－９

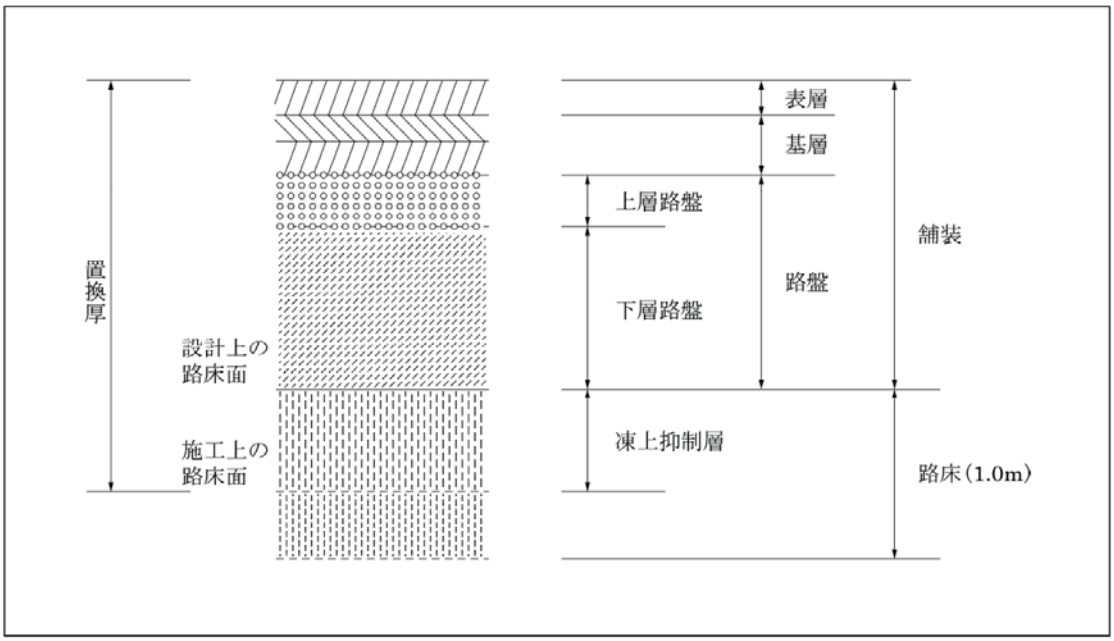
3－3　路肩・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－10
　3－3－1　路肩の側帯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－10
　3－3－2　保護路肩 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－10

3－4　マーキング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設、舗－10

３　舗　装　工

３－１　アスファルト舗装の構造

３－１－１　舗装の構成



密粒度アスコン	表　　層	t=3cm
粗粒度アスコン	基　　層	t=4cm
アスファルト安定処理	上層路盤	t=5cm
40mm級 切込砂利（砕石）	下層路盤	
	凍上抑制層	

図３-１-１　アスファルト舗装構成図

縦断勾配が急（７％以上）で、区間延長が３００m以上続く場合は、密粒度ギャップアスコンを用いる。

３－１－２　置換厚

（１）　置換厚は、凍上被害を防止するために、凍結深さの実測値や経験的な値、又は気温データから得られる凍結指数を参考にして求める。

（２）　気象条件等により求めた置換厚は、表３-１-１とする。

市町村別の置換厚

振興局	置換厚	市町村名
石狩・空知	80	石狩支庁管内全市町村・岩見沢市＜旧岩見沢市・旧北村・旧栗沢町＞・美唄市・三笠市・南幌町・奈井江町・由仁町・長沼町・栗山町・月形町・浦臼町
	90	夕張市・芦別市・赤平市・滝川市・砂川市・歌志内市・深川市・上砂川市・新十津川町・妹背牛町・秩父別町・雨竜町・北竜町・沼田町
後志	70	島牧村・寿都村・岩内町・泊村・神恵内村・積丹町
	80	小樽市・黒松内町・蘭越町・ニセコ町・真狩村・留寿都村・喜茂別町・京極町・倶知安町・共和町・古平町・仁木町・余市町・赤井川村
渡島・檜山	60	函館市＜旧函館市・旧戸井町・旧恵山町・旧椴法華村・旧南茅部町＞・北斗市＜旧大野町・旧上磯町＞（上磯厚沢部線の支庁界～盤の沢橋を除く）・松前町・福島町・知内町・木古内町・七飯町・鹿部町・森町＜旧森町・旧砂原町＞（霞台森（停）線の内起点霞台～虹懸橋除く）・江差町・上ノ国町・乙部町・せたな町＜旧大成町＞・奥尻町・八雲町＜旧八雲町・旧熊石町＞（八雲厚沢部線の内石滝橋～支庁界，国道 277 号の内清流橋～支庁界，桜野野田生線の内起点桜野～温泉町道交点，国道 277 号の内支庁界～雲石橋を除く）・厚沢部町（上磯厚沢部線の内紅葉橋～支庁界，八雲厚沢部線の内支庁界～清水橋を除く）
	70	北斗市＜旧上磯町＞（上磯厚沢部線の支庁界～盤の沢橋）・長万部町・せたな町＜旧瀬棚町・旧北桧山町＞・今金町・森町＜旧森町＞（霞台森（停）線の内起点霞台～虹懸橋）・八雲町＜日八雲町・日熊石町＞（八雲厚沢部線の内石滝橋～支庁界，国道 277 号の内清流橋～支庁界，桜野野田生線の内起点桜野～温泉町道交点，国道 277 号の内支庁界～雲石橋）・厚沢部町（上磯厚沢部線の内紅葉橋～支庁界，八雲厚沢部線の内支庁界～清水橋）
胆振・日高	70	室蘭市
	80	苫小牧市・登別市（国立公閏内を除く）・伊達市＜旧伊達市・旧大滝村＞（国立公閏内を除く）・豊浦町・洞爺湖町＜旧虻田町・旧洞爺村＞（国立公圏内を除く）・壮瞥町（国立公圏内を除く）・白老町（国立公圏内を除く）・安平町＜旧追分町＞・厚真町（平取厚真線より内陸を除く）・むかわ町＜旧鵡川町＞・平取町（平取静内線より内陸を除く）・日高町＜旧門別町＞・新冠町（新和より内陸を除く）・新ひだか町＜旧静内町・三石町＞（御国より内陸を除く）・浦河町（高見西舎線より内陸を除く）・様似町・えりも町
	90	登別市（国立公園内）・伊達市＜旧伊達市＞（国立公園内）・洞爺湖町＜旧虻田町・旧洞爺村＞（国立公園内）・壮瞥町（国立公園内）・白老町（国立公園内）・厚真町（平取厚真線より内陸）・平取町（平取静内線より内陸）・新冠町（新和より内陸）・新ひだか町＜旧静内町＞（御国より内陸）・浦河町（高見西舎線より内陸）・安平町＜旧早来町＞・むかわ町＜旧穂別町＞
	100	日高町＜旧日高町＞
上川	90	旭川市・士別市＜旧士別市・朝日町＞・富良野市・名寄市＜旧風連町＞・鷹栖町・東神楽町・当麻町・比布町・愛別町・上川町（大雪国立公園内を除く）・東川町・美瑛町・上富良野町・中富良野町・和寒町・剣淵町・下川町・中川町
	100	名寄市＜旧名寄市＞・上川町（大雪国立公園内）・南富良野町・占冠町・美深町・音威子府村・幌加内町
留萌	80	留萌市（幌糠より東部を除く）・増毛町・小平町（達府橋より北部および下記念橋より東部を除く）・苫前町（錘立山より東部を除く）・羽幌町（曙より東部を除く）・初山別村・遠別町（面白橋より南部を除く）・天塩町（国道 40 号より北部を除く）
	90	留萌市（幌糠より東部）・小平町（達府橋より北部および下記念橋より東部）・苫前町（錐立山より東部）・羽幌町（曙より東部）・遠別町（面白橋より南部）・天塩町（国道 40 号より北部）

市町村別の置換厚

振興局	置換厚	市町村名
宗谷	80	礼文町・利尻町・利尻富士町
	90	稚内市・猿払村・浜頓別町・枝幸町＜旧枝幸町＞（志美宇丹美深線全線，乙忠部中頓別線の内長姫橋～町界，枝幸音威子府線の内金駒内橋～町界を除く）・豊富町・幌延町
	100	中頓別町・枝幸町＜旧枝幸町・歌登町＞（志美宇丹美深線全線，乙忠部中頓別線内長姫橋～町界，枝幸音威子府線の内金駒内橋～町界）
オホーツク	80	網走市・紋別市・北見市＜旧常日町＞・大空町＜旧東藻琴村・旧女満別町＞・斜里町（知床公園内を除く）・清里町（緑より南部を除く）・小清水町・佐日間町・湧別町＜旧上湧別町・旧湧別町＞・興部町・西興部町・雄武町（上幌内より南西部を除く）
	90	北見市＜旧北見市・旧端野町・旧留辺薬町＞・美幌町・津別町（峠部を除く）・斜里町（知床公園内）・清里町（縁より南部）・訓子府町（峠部を除く）・遠軽町＜旧遠軽町・旧生田原町・旧丸瀬布町・旧白滝村＞・滝上町・雄武町（上幌内より南西部）
	100	津別町（峠部）・訓子府町（峠部）・置戸町
十勝	90	幕別町＜旧忠類村＞・大樹町・広尾町・豊頃町（国道 336 号より南部）・浦幌町（国道 38 号より南部）
	100	帯広市・音更町・士幌町・上士幌町・鹿追町・新得町・清水町・芽室町・中札内村・更別村・幕別町＜旧幕別町＞・池田町・豊頃町（国道 336 号より南部を除く）・本別足寄町（清水谷足寄線より北部を除く）・浦幌町（国道 38 号より南部を除く）
	110	足寄町（清水谷足寄線より北部）・陸別町
釧路・根室	80	釧路市＜旧釧路市＞・釧路町・厚岸町（国道 44 号より南部）・浜中町（国道 44 号より北部を除く）・根室市・標津町・羅臼町
	90	釧路市＜旧阿寒町・旧音別町＞・厚岸町（国道 44 号より南部を除く）・浜中町（国道44 号より北部）・標茶町・弟子屈町・鶴居村・白糠町・別海町・中標津町

表３－１－１

３－１－３　設計ＣＢＲ

（１）　舗装の設計ＣＢＲは凍上抑制層と路床のＣＢＲを合成して求める。この場合の凍上抑制層材料及び土のＣＢＲは次の値とする。

土質	火山灰	砂	粗粒材	土
ＣＢＲ	４	５	１０	３

表３－１－２

（２） 合成して求めた設計ＣＢＲは次のとおりとする。

凍上抑制層材料 ＼ 路床の材料	火山灰		砂		切込砂利・採石等粗粒材	
	厚さ(cm)	設計ＣＢＲ	厚さ(cm)	設計ＣＢＲ	厚さ(cm)	設計ＣＢＲ
土＝３		3	54 以下 55 以上	3 4	20 以下 21～52 53～78 79 以上	3 4 6 8
火山灰＝４		4		4	40 以下 41～72 73 以上	4 6 8
砂＝５				4	24 以下 25～65 66 以上	4 6 8
切込砂利 切込採石＝１０ 等粗粒材						8

注１　北海道では、舗装の設計箇所について融雪時期の設計ＣＢＲを実測することは多くの時間と労力を要し、路床土質や凍上抑制層材料の種類ごとにあらかじめ設計ＣＢＲを定めている。

２　凍上抑制層材料のＣＢＲが、路床のＣＢＲより小さい場合は、合成しないで凍上抑制層材料のＣＢＲとする。

表３－１－３

合成ＣＢＲ＝（H1・(ＣＢＲ1)$^{1/3}$ ＋H2・(ＣＢＲ2)$^{1/3}$ ／H)^{3}

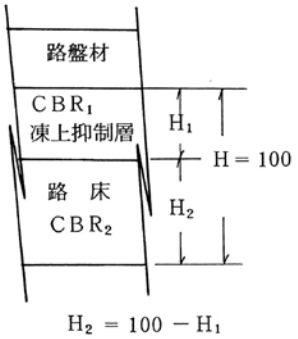
Ｈ：路床強度として凍上抑制層を含めて１００㎝とする。

H1：凍上抑制層の厚さ

H2：Ｈ－H1

ＣＢＲ1：凍上抑制層のＣＢＲ

ＣＢＲ2：路床のＣＢＲ



３－１－４　舗装厚の設計

舗装厚さの設計に当たっては、路床の設計 CBR に応じて次表の必要厚を下回らないように舗装の各層の厚さを決定する。

アスファルト舗装の必要等値換算厚（T_A）

設計ＣＢＲ		３	４	６	８	１２	２０
区分	交通量						
1	100 以上 250 未満	１９	１８	１６	１４	１３	１１
2	40 以上 100 未満	１５	１４	１２	１１	１０※	９※
3	15 以上 40 未満	１２	１１	１０※	９※	８※	７※
4	15 未満	９※	９※	８※	７※	７※	７※

注１　設計ＣＢＲ４とは、４以上６未満を示す。

２　T_Aが１１未満になる場合、各層の最小厚さを満足しない場合があるので、使用材料及び工法の選定には留意する。

３　T_Aは、舗装が表層・基層用加熱アスファルト混合物の何ｃｍに相当するかを示す値であり、次式を用いる。

$T_A = a_1T_1 + a_2T_2 + \cdots a_nT_n$　　a1、a2、・・・・an：表３－１－５に示す等値換算係数

T1、T2・・Tn：各層の厚さ（ｃｍ）

４　T_A が１１未満となる場合（表中※印）、各層の最小厚さを満足しない場合があるので、使用材料及び工法の選定に留意する。

表３－１－４

舗装各層に用いる材料・工法の等値換算係数

使用する層	材料・工法	品質規格	等値換算係数 a
表層 基層	加熱式アスファルト混合物	ストレートアスファルトを使用	１．００
上層路盤	瀝青安定処理	加熱混合：安定度 3.43KN 以上	０．８０
		常温混合：安定度 2.45KN 以上	０．５５
下層路盤	切込砕石、鉄鋼スラグ、砂等	修正ＣＢＲ30 以上	０．２５
		修正ＣＢＲ20 以上 30 未満	０．２０

表３－１－５

表層と基層を加えた最小厚さ

区　分	交　通　量	表層と基層を加えた最小厚さ(cm)
1	100 以上 250 未満	5
2	40 以上 100 未満	5
3	40 未満	４（３）

（　）内は、上層路盤に瀝青安定処理工法及びセメント・瀝青安定処理工法を用いる場合の最小厚さを示す。

表３－１－６

路盤各層の最小厚さ（舗装計画交通量４０台／日・方向以上）

工法・材料	１層の最小厚さ
瀝青安定処理（加熱混合物）	最大粒径の２倍かつ５ｃｍ
そ の 他 の 路 盤 材	最大粒径の３倍かつ１０ｃｍ

路盤各層の最小厚さ（舗装計画交通量４０台／日・方向未満）

工法・材料	１層の最小厚さ
粒度調整砕石・切込砕石	７ｃｍ
瀝青安定処理（常温混合物）	７ｃｍ
瀝青安定処理（加熱混合物）	５ｃｍ
セメント・瀝青安定処理	７ｃｍ
セ メ ン ト 安 定 処 理	１２ｃｍ
石 灰 安 定 処 理	１０ｃｍ

表３－１－７

下層路盤の最小厚さ

下層路盤材料の粒径は４０ｍｍ級であり、十分な転圧を行うため粒径の３倍以上を確保しかつ、施工性、品質管理性を考慮し１５ｃｍ以上とする。

【参考】コンクリート舗装におけるコンクリート版の版厚等（普通コンクリート舗装）

区分	交通量	コンクリート版の設計			収縮目地間隔	タイバー、ダウエルバー
		設計基準・曲げ強度	版厚	鉄網		
1	100 未満	4.4MPa（3.9MPa）	15(20)cm	3kg／m2	8m 鉄網を用いない場合 5m	原則使用する
2	100 以上 250 未満		20(25)cm			

表３－１－８

３－１－５　舗装構成の標準

舗装及び路盤構成は、次の表を標準とする。

名　　称	材　　料	厚さ
表　　層	密粒度アスファルト混合物　安定度≧4.90KN	3
	細粒度アスファルト混合物　安定度≧3.43KN	
中　間　層	粗粒度アスファルト混合物　安定度≧4.90KN	－
基　　層	〃	4
上　層　路　盤	アスファルト安定処理　安定度≧4.90KN	5
下　層　路　盤	40mm 級粗粒材	B
凍 上 抑 制 層	80mm 級粗粒材、砂、火山灰	X

注１　表層施工時期が冬期になる場合は、密粒度アスコンの施工・品質管理が困難なことから、細粒度アスコンを使用する。

２　再生混合物を標準とする。

３　凍上抑制層材料については、再生骨材等の使用を標準とする。

表３－１－９

３－１－６　凍上抑制層

理論最大凍結深さより求めた市町村別置換厚さは、表３－３－３のとおりとする。また、凍結深度から決まる路盤全厚は理論最大凍結深さの７０％とする。

路盤厚（Ｂ・Ｘ）の算出方法（計算例）

交通量　７０台／日

路床のＣＢＲ３（土）、置換厚１１０cm（陸別町）

凍上抑制層：火山灰

目標値（T_A）を設定：表３－１－４よりT_A＝１５

下層路盤（Ｂ）の算出

１５（T_A）＝３×１．００＋４×１．００＋５×０．８０＋Ｂ×０．２５

＝１６ｃｍ

凍上抑制層厚（Ｘ）の算出

置換厚－舗装厚－下層路盤厚＝１１０－１２－１６＝８２ｃｍ

設計ＣＢＲの確認

表３－１－３より凍上抑制層厚８２ｃｍ（粗粒材）の場合の設計ＣＢＲ＝８

設定した設計ＣＢＲを上回っていることから下層路盤１６ｃｍ、凍上抑制層８２ｃｍを採用する。

【参考】　表層３ｃｍ　基層４ｃｍ　上層路盤５ｃｍ

	T_Aに基づく厚さ		仕上がり回数を考慮した厚さ	
	路盤厚	仕上り回数	路盤厚	仕上り回数
下　層　路　盤	16cm	/20cm＝1 層	20cm	/20cm＝1 層
凍上抑制層(粗粒材)	82cm	/20cm＝5 層	80cm	/20cm＝4 層
計	98cm	6 層	100cm	5 層

注１　厚さを考慮した場合調整後の厚さによりT_Aを算出、設計より上回っているか確認する。

T_A＝３cm×１．００＋４cm×１．００＋５cm×０．８０＋２０cm×０．２５

＝１６．０＞１５・・・ＯＫ

表３－１－１０

路床材料が土の場合

置換厚	閉鎖・開放	凍上抑制層材料	区分１（100以上～250未満）					区分２（40～100未満）				
			下層路盤厚 B	凍上抑制層厚 X	T_A	設計 CBR	舗装合計厚	下層路盤厚 B	凍上抑制層厚 X	T_A	設計 CBR	舗装合計厚
50	閉鎖型	火山灰	40	0	(19) 21.00	3	52	20	20	(15) 16.00	3	52
		砂	40	0	(19) 21.00	3	52	20	20	(15) 16.00	3	52
		粗粒材	40	0	(19) 21.00	3	52	20	20	(15) 16.00	3	52
60	開放型	火山灰	35	15	(19) 19.75	3	62	20	30	(15) 16.00	3	62
		砂	35	15	(19) 19.75	3	62	20	30	(15) 16.00	3	62
		粗粒材	30	20	(18) 18.50	4	62	15	35	(14) 14.75	4	62
70		火山灰	40	20	(19) 21.00	3	72	20	40	(15) 16.00	3	72
		砂	40	20	(19) 21.00	3	72	20	40	(15) 16.00	3	72
		粗粒材	30	30	(18) 18.50	4	72	20	40	(14) 16.00	4	72
80		火山灰	35	35	(19) 19.75	3	82	20	50	(15) 16.00	3	82
		砂	35	35	(19) 19.75	3	82	20	50	(15) 16.00	3	82
		粗粒材	30	40	(18) 18.50	4	82	15	55	(14) 14.75	4	82
90		火山灰	40	40	(19) 21.00	3	92	20	60	(15) 16.00	3	92
		砂	40	40	(19) 21.00	3	92	20	60	(14) 16.00	4	92
		粗粒材	30	50	(18) 18.50	4	92	20	60	(12) 16.00	6	92
100		火山灰	35	55	(19) 19.75	3	102	20	70	(15) 16.00	3	102
		砂	30	60	(18) 18.50	4	102	15	75	(11) 14.75	4	102
		粗粒材	20	70	(16) 16.00	6	102	15	75	(11) 14.75	8	102
110		火山灰	40	60	(19) 21.00	3	112	20	80	(15) 16.00	3	112
		砂	30	70	(18) 18.50	4	112	20	80	(11) 16.00	4	112
		粗粒材	20	80	(14) 16.00	8	112	15	75	(11) 14.75	8	112

置換厚	閉鎖・開放	凍上抑制層材料	区分３（15以上40未満）					区分４（15未満）				
			下層路盤厚 B	凍上抑制層厚 X	T_A	設計 CBR	舗装合計厚	下層路盤厚 B	凍上抑制層厚 X	T_A	設計 CBR	舗装合計厚
50	閉鎖型	火山灰	20	20	(12) 16.00	3	52	20	20	(9) 16.00	3	52
		砂	20	20	(12) 16.00	3	52	20	20	(9) 16.00	3	52
		粗粒材	20	20	(12) 16.00	3	52	20	20	(9) 16.00	3	52
60	開放型	火山灰	15	35	(12) 14.75	3	62	15	35	(9) 14.75	3	62
		砂	15	35	(12) 14.75	3	62	15	35	(9) 14.75	3	62
		粗粒材	15	35	(11) 14.75	4	62	15	35	(9) 14.75	4	62
70		火山灰	20	40	(12) 16.00	3	72	20	40	(9) 16.00	3	72
		砂	20	40	(12) 16.00	3	72	20	40	(9) 16.00	3	72
		粗粒材	20	40	(11) 16.00	4	72	20	40	(9) 16.00	4	72
80		火山灰	20	50	(12) 16.00	3	82	15	55	(9) 14.75	3	82
		砂	15	55	(11) 14.75	4	82	15	55	(9) 14.75	4	82
		粗粒材	15	55	(10) 14.75	6	82	15	55	(8) 14.75	6	82
90		火山灰	20	60	(12) 16.00	3	92	20	60	(9) 14.75	3	92
		砂	20	60	(11) 16.00	4	92	20	60	(9) 14.75	4	92
		粗粒材	20	60	(10) 16.00	6	92	20	60	(8) 14.75	6	92
100		火山灰	15	75	(12) 14.75	3	102	15	75	(9) 14.75	3	102
		砂	15	75	(11) 14.75	4	102	15	75	(9) 14.75	4	102
		粗粒材	15	75	(9) 14.75	8	102	15	75	(7) 14.75	8	102
110		火山灰	20	80	(12) 14.75	3	112	20	80	(9) 14.75	3	112
		砂	20	80	(11) 14.75	4	112	20	80	(9) 14.75	4	112
		粗粒材	20	80	(9) 14.75	8	112	20	80	(7) 14.75	8	112

注１　TA欄の（）は目標値を示す。
　２　着色箇所は、転圧層数の調整で経済的になり、下層路盤と凍上抑制層厚を調整している。

表３－１－１１

３－１－７　開放型・閉鎖型

開放型の舗装構造を適用する路線は、冬期間の積雪（積雪深３０ｃｍ程度）がない路線及び除雪を実施する路線で、閉鎖型は、除雪を実施しない路線かつ積雪深が３０ｃｍ以上ある路線に適用する。

区　分	舗　装　厚
開放型	置換厚６０～１１０ｃｍ
閉鎖型	置換厚５０ｃｍ

表３－１－１２

３－１－８　路床が岩盤の場合

路床面下の約１ｍ以内に岩盤がある場合

１　凍上や風化の恐れのない岩盤路床の場合は、その面を路床面としてよい。岩の掘削による不陸が残るため、そのくぼみに地下水や雨水が滞水しないよう、厚さ１０ｃｍ以上の貧配合のコンクリート等で不陸整正をしたのち、上層路盤、表層・基層を設ける。

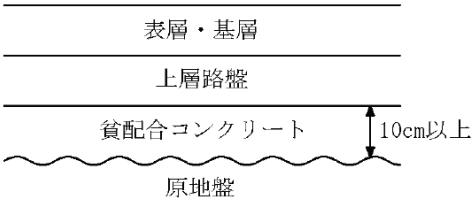


図３－１－２

２　岩盤上の路床土が５０ｃｍ未満の場合は、置換工法、安定処理工法等でＣＢＲを２０以上に改良することが望ましい。

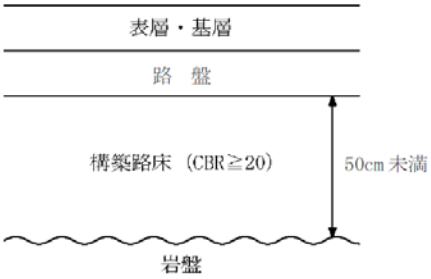


図３－１－３

３－２　取付道路の舗装

舗装した林道と交わる取付道路（国道、道道等は除く）の舗装は次によるものとする。

１　取付道路の舗装延長は５．０ｍを標準とする。ただし、取付角度および勾配が急でこれによることが困難な場合は、必要な延長を舗装する。

２　取付道路の設計舗装厚は５０ｃｍとし、図３－２－１による。

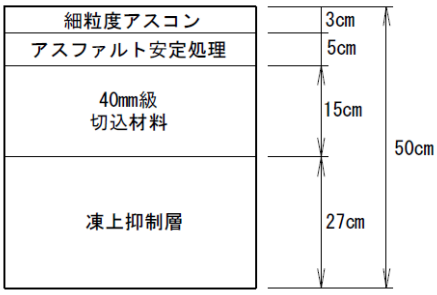


図３－２－１

３－３　路肩

路肩幅は５０ｃｍとし、自動車の荷重に耐えうるように舗装する。

また、盛土部においては路面水の集水を路肩で行うために路肩端に縁石を設け路体の安定を図る。

３－３－１　路肩の側帯

側帯の機能

１　車道との境界をマーキング等により一定幅で明瞭に示し、運転者の視線を誘導し、運転に対する安全性を増大させる。

２　走行上必要な側方余裕幅の一部を確保することにより、車道の効用を保つ。

３　車道を逸脱した自動車に対し、安全性を向上させる。

４　側帯幅は２５ｃｍとし、車道と同じ構造とする。

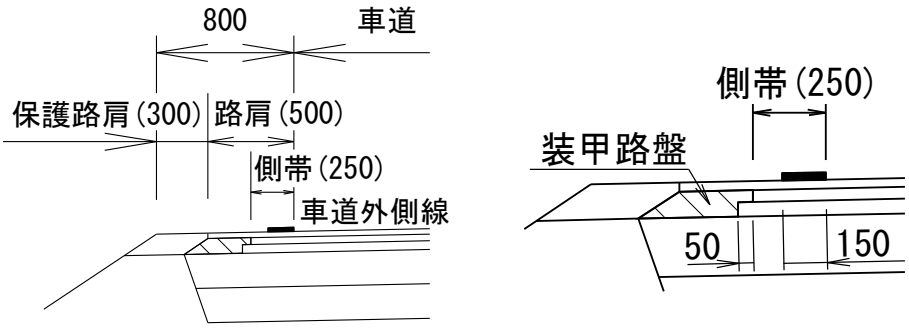


図３－３－１

３－３－２　保護路肩

保護路肩は、道路の最外側にあって、舗装構造及び路体を保護するためのものであって、建築限界内には含まれない。

３－４　マーキング

舗装された路面には、必要な場所にマーキングを設けなければならない。

種　類	様　式	寸　法	備　考
車道中央線	破線	５m間隔　幅１５ｃｍ	
車線境界線	破線	５m間隔　幅１５ｃｍ	
車道外側線	実線	幅１５ｃｍ	

※１　実線：横断、転回、右左折、駐停車等のため横切る場合を除き、この線を踏み越えてはならない。

２　破線：追越しを行おうとする場合等で交通上の支障がないときは、踏み越えることができる。

表３－４－１